

理系学者が読み解く魏志倭人伝

神武、県北説 宮崎さんが出版 邪馬台国の謎に迫る

神武天皇は美在し延岡、日向で暮らした後に東征したと主張する

神武天皇は美在し延岡、日向で暮らした後に東征したと主張する

神武天皇は美在し延岡、日向で暮らした後に東征したと主張する

理系学者が読み解く『魏志』倭人伝
女王卑弥呼が都した邪馬台国に到る

宮崎照雄
三重大学出版会

後地にはもともと、「魏志」倭人伝が記す「邪馬台国」という名前を持つ国はなかつた。女王卑弥呼の都は山麓の丘陵に在り、古代日本人は「丘陵」を後語「やまとことば」で「邪麻臺」(やまたい)と呼んだ。その「やまたい」を陳寿は卑字(指字)にして「邪馬臺」と書し、范曄は「後漢書」倭伝で「邪馬臺」と訂正した。では、女王卑弥呼の都が在った丘陵はどの山の麓にあったのか? 本文に詳しく述べています。

宮崎照雄 三重大学出版会

宮崎照雄さんの「女王卑弥呼が都した邪馬台国に到る」(三重大学出版会発行)

ほど、理系学者が読み解く魏志倭人伝「女王卑弥呼が都した邪馬台国に到る」(三重大学出版会)を出版した。宮崎さんは水族病理解が専門。魚の病気を40年間にわたって研究してきた。理系の研究は独創性が重要で全てがオリジナルだとし、その理系学者の視点から魏志倭人伝を読み解き、女王卑弥呼が都と

した邪馬台国の所在地に迫った。邪馬台国は謎ではない。邪馬台国をいつまでも謎のままにしておいて、それを追い求め続けることが日本人のロマンではない。邪馬台国は、ここにあったのです。邪馬台国探索の旅はここに終点を迎えたのですと主張している。同書はA5サイズ、

232ページ。価格は2000円。3部構成で第1部が女王卑弥呼の都する邪馬台国に到る。第2部が「卑彌呼以死(卑弥呼もって死す、卑弥呼すでに死す)を考える。第3部が記紀神話にみる魏志倭人伝外伝。宮崎さんは、理系学者の視点から記紀にアプローチ。新しい解釈を加え、従来は文系学者中心だった分野に一石を投じて注目を集めた。延岡や日向で講演会を開催しており、宮崎ファンは増えている。

延岡西高同窓会

浪速の空に校歌響く

令和最初の 関西星遊会 105人が集い盛大に

大阪

令和になって初めての延岡
西高校同窓会関西支部の第6回関西星遊会(矢野
雄一会長が6月22日、大阪市港区弁天町のアートホテル
大阪ベイタワーで開かれ、関西や近郊在住の卒業生10
5人男55、女50)が参加しました。1)ポスター・
6)回生の川名辰夫さん)

延岡星遊会の野中玄雄 生、今年9月に開催され、東京、名古屋からも参加
会長(9回生)川並次郎、延岡星遊会の首藤浩 生、卒業生の結
副会長(12回生)関東星 委員長(36回生)ら実行、東を関西の地で確立する
遊会の坂元健会長(11回) 委員の皆さんほか延岡、ことができました。



羽島新菜さん(13回生)
の総合司会で開会、物故
者への黙とう、矢野会長
(8回生)、野中会長の東
いさつに続き、坂元副
星遊会会長の乾杯の音頭
で開宴しました。

例年通りにながやかで楽
しく、女性デュオ「W
RUA(ウルル)」が歌
と踊りで花を添えてくれ
ました。恒例のお楽しみ
抽選会には、サララシッ
プや、時代劇水吉黄門」
にも登場した郷土の銘菓
「破れまんじゅう」「神戸
一宮崎」往復優待券など
多くの協賛企業から賞品
を頂き、全員が景品をも
らって笑顔になりました。



1年ぶりの再会に笑顔の参加者

回生の18人がステージ
からおめでたい菓子を
まき、古希(70歳)となっ
た6人のお祝いもしま
した。最後は参加者全員
でのはんば踊り、校歌斉
唱、万歳三唱記念写真
の撮影で締めくくられ、
6回目の関西星遊会を無
事に終えることができました。



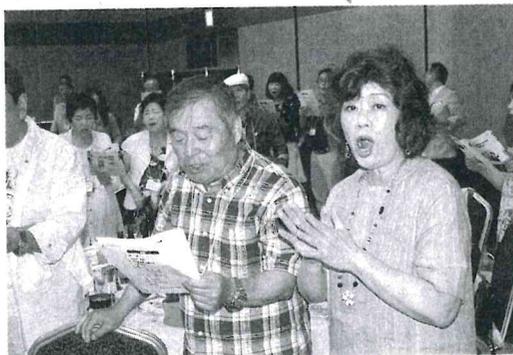
最後は、参加者が輪になつてのはんば踊り



9月開催の延岡星遊会実行委員の音頭で万歳三唱



関西を中心に延岡、東京、名古屋などから105人の卒業生が集った



へ歴史は香る……。懐かしい校歌が浪速の空に響いた



ステージから菓子をまく還暦、古希を迎えた卒業生